

令和5年度 鹿角市立花輪中学校 学校評価書

<参考表示>

目標	市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価 中間	外部評価 中間	自己評価 年度末	外部評価 年度末	市の施策の柱
確かな学力と高い志を育てる教育の充実	基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	① 自ら学び続ける力と協働的に考えをみがぐ力を高める授業改善の推進 ② 望ましい学習集団の育成による学力の定着 ③ 読書活動の推進と読解力の育成	4	4	4	4	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
	基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	① 望ましい職業観の育成を目指した職場体験学習や鹿角プロフェッショナル講座の活発化 ② 鹿角を支え、鹿角と関わって生きていく生徒を育む「はなふるタイム」の充実	3	3	4	4	①社会的・職業的自立を目指した教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
	基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	① 1人1台の端末を活用した個に応じた学びの充実 ② 情報社会において正しく判断・行動できる生徒を育む情報モラル教育の充実	4	4	4	4	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実	基本方向4 豊かな心を育みます。	① 一人一人に居場所がある集団作りの推進 ② 自己有用感と主体性を高める特別活動の充実 ③ 特別の教科道徳を「要」とした道徳教育の充実	4	4	4	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成、 ②規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
	基本方向5 健やかな体を育みます。	① 望ましい生活習慣の確立 ② 体力向上への意識を高める体育授業、体育的行事および部活動	3	3	3	4	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
	基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	① 共感的理解に基づく生徒支援の推進 ② 合理的配慮の視点による特別支援教育の推進 ③ 関係機関との連携強化	3	3	4	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の充実	基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくりまします。	① 安全確保のための取組の充実 ② 校舎内外の潤いある環境整備	4	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
	基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	① 教職員の資質向上を目指した校内研修の充実 ② 人事評価制度を生かした校内OJTの推進	4	4	4	4	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
	基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	① 地域人材やボランティア、地域素材の積極的な活用 ② 保護者・地域への積極的な情報発信	4	4	4	4	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

5	まわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実現状況は良好である	達成率80~90%
3	実現状況はおおむね良好である	達成率60~79%
2	実現状況はやや不十分である	達成率50~59%
1	実現状況は不十分で努力を要する。	達成率49%以下

基本方向 1 「自己実現のために必要な確かな学力の定着」

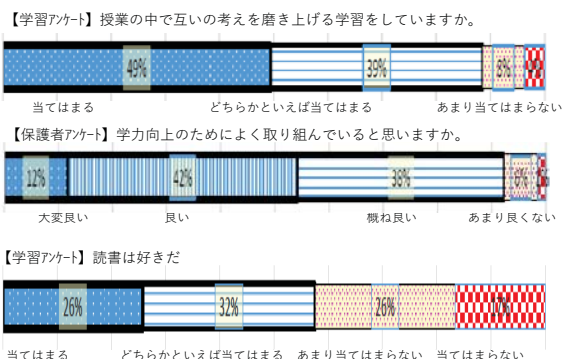
児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	4月に全校集会を実施し、授業や自学への取組を確認した。「授業の振り返り」アンケート結果からは、積極性が課題と言える。	中間	4	中間	4	生徒の学習意欲面での肯定的回答が高い。確かな学力を定着させるための授業づくりや関係機関と連携しながら読書好きの生徒を増やすための手立てを継続して行ってほしい。
年度末	互いに学び合いながら、学力の向上を図ってきている。振り返りを通して、「分かったこと」や課題を次時の学習や生活につなげていきたい。	年度末	4	年度末	4	教員全体での共通実践による授業実践や授業改善を継続している。学習内容の難化による意欲面での改善を望む。読書活動推進の様々な取組が行われており、今後、各種連携や読書の効果PR等を進めることで更に改善が図られるのではないかと。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 共通実践事項「花中スタンダード」を意識しながら、各教員が授業づくりを進めることができている。生徒の主体性や反応も良い。実践を深めるために、校内研究会や授業を見合う会の実施に加え、研究主任が授業を撮影し、職員会議等の場を活用しながら、定期的に研修を行ったことも、実践の共通理解に効果的だった。今後の課題としては、「Brush Upタイム」や振り返りの効果的な方法について実践を深め、学び合いの充実や知識・技能の定着を図っていききたい。また、読書への意欲が低い傾向があり、朝読書や読書の日の実施、読書環境づくり等を実施し改善を図り、読書に親しみ、読書の良さに気付く機会を増やしていきたい。					
	【年度末評価】 教員一人一人が「花中スタンダード」をもとに、教員全体で「ぶれない授業づくり」を目指しながら、生徒の主体性を引き出す授業実践を進めてきた。さらに、振り返りの手立ての工夫や実践を深め、学習の継続性や生活との接続を意識させることで、生徒の学習への必要感を高めてきた。今後の課題としては、意欲や基礎学力の定着とともに、教科による大きな差が見られることが上げられる。より良い実践を行っている教員の授業を参考にしながら、互いに研修に努めたい。また、読書活動を推進するために、おすすめの図書を紹介したり、校内の様々なスペースを活用しながら、図書の魅力をPRする環境整備を進めてきている。生徒が図書に親しむ機会を増やすための場の設定が課題である。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
① 自ら学び続ける力と協働的に考えをみがく力を高める授業改善の推進 ② 望ましい学習集団の育成による学力の定着 ③ 読書活動の推進と読解力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「花中スタンダード」を各教科で共通実践 ・必要感のあるめあて、課題の工夫 ・個の考えを深めるための「Brush Upタイム」の設定 ・振り返りの実施と見取り ・「授業の心構え」の徹底 ・生徒による学習の振り返りアンケートの実施（毎月） ・教師による共通実践事項を踏まえた授業づくりの振り返り（毎月） ・朝活動における読書の実施 ・読書の日（第3木曜日）を設定 ・読書に親しむ環境づくり

<資料> ※【%】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合

- 基本的な学習習慣【生活アンケート 93%】
- 学校の勉強がよくわかる【学習アンケート 81%】
- 学力向上【保護者アンケート 92%】
- 家庭学習【生活アンケート87% 保護者アンケート70%】

- 読書が好きだ【学習アンケート 58%←58% (R5-7月本校平均)】



【職員室前の教職員おすすめ図書の紹介コーナー】

12月に1・2年生を対象に実施した全県学習状況調査では、各学年ともに、教科によって、県平均通過率を上回ったり下回ったりと差が見られる結果となった。今後の授業の中で、定着の低い事項を中心に補充学習を進めることで、生徒の苦手意識の改善を図りたい。

基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント																											
年度初め	昨年度のキャリアアンケートの結果から、協働して課題解決する力がついてきているが、見通しをもつことや行動にうつすことが課題であると言える。	中間	3	中間	3	今年度は予定通り行事を開催できており、生徒のキャリア形成にいい影響を与えている。熟議での成果も生かしながら、2学期以降の「鹿角を元気にするプロジェクト」に期待している。																											
年度末	はなふるタイムを通して、地域の伝統芸能継承や地域課題について理解を深め、生徒自らができることを実践する場となっている。	年度末	4	年度末	4	花中祭での花輪ばやしの演奏は圧巻だった。はなふるタイムの活動や花中祭での発表を通じて、生徒の「ふるさとへの気概」を感じることができた。今年度の地域との交流や活動を通しての気付き等の成果を来年度に生かしてほしい。																											
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 今年度は、5月に1年校外学習（鹿角地区）、2年校外学習（盛岡市）、3年修学旅行（東京都）を実施することができた。6月には、本校卒業生の佐藤裕希氏を講師に迎え、「夢や目標を実現するために」のテーマで、パネルディスカッションを実施した。総合的な学習の時間の活動については、今年度から新たに「はなふるタイム」のテーマを「鹿角を元気にするプロジェクト」と設定し、「過去」「現在」「未来」の観点から、伝統芸能の継承・劇やダンスでのPR・鹿角の課題や魅力のプレゼンテーション等に取り組み始めている。まだ試行錯誤の段階だが、2学期の活動を通して、花中祭での発表に向けて準備しながら、ふるさと・キャリア教育の花中スタンダードを作り上げていきたい。																																
	【年度末評価】 一学期から「鹿角を元気にするプロジェクト」をテーマに掲げ、伝統芸能の継承・劇やダンスでのPR・鹿角の課題や魅力のプレゼンテーション等に取り組み、その成果を、花中祭で保護者や地域の方々に発表披露した。また、その活動の過程で、地域の方々から指導や協力をいただくことを通して、ふるさとを知り・関わる喜びについて触れることができた。今年度、初めての取組であったが、生徒の主体性を重視しながら進めたことで、意欲的に活動する場面を多く目にした。今年度取り組んでみたことで得た課題や改善点を、来年度につなげるためにも、組織づくりや企画の内容や準備を今年度中に進めていきたい。また、11月に、職場体験学習（2年生）、企業説明会（全校）、介護人材セミナー（1年）を開催し、体験を通して生徒の職業観の向上を図ることができた。																																
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容																															
① 望ましい職業観の育成を目指した職場体験学習や鹿角プロフェッショナル講座の活発化 ② 鹿角を支え、鹿角と関わって生きていく生徒を育む「はなふるタイム」の充実		・学活での系統的な職業観の育成 ・3年間を見通した、職場訪問や職場体験 ・総合的な学習の時間における地域人材の活用 ・地域の伝統や文化を継承する行事 ・キャリアパスポートの活用																															
<資料> ※【 %】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合 ○進路や自己実現に向けた活動 【生活アンケート 84% 保護者アンケート 96%】 ○地域への親しみ、郷土愛を育む活動 【生活アンケート 84% 保護者アンケート 95%】 ○あなたは鹿角が好きですか【生活アンケート 96%】		【生活アンケート】あなたは、地域に親しみ、地域の人たちと関わることができていますか。  <table border="1"> <caption>【生活アンケート】あなたは、地域に親しみ、地域の人たちと関わることができていますか。</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>大変良い</th> <th>良い</th> <th>概ね良い</th> <th>あまり良くない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月12</td> <td>19%</td> <td>32%</td> <td>33%</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>12月12</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>18%</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table> 【生活アンケート】あなたは、鹿角が好きですか。  <table border="1"> <caption>【生活アンケート】あなたは、鹿角が好きですか。</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>大変良い</th> <th>良い</th> <th>概ね良い</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月12</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>12月12</td> <td>53%</td> <td>35%</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>					時期	大変良い	良い	概ね良い	あまり良くない	7月12	19%	32%	33%	13%	12月12	39%	36%	18%	4%	時期	大変良い	良い	概ね良い	7月12	39%	36%	18%	12月12	53%	35%	8%
時期	大変良い	良い	概ね良い	あまり良くない																													
7月12	19%	32%	33%	13%																													
12月12	39%	36%	18%	4%																													
時期	大変良い	良い	概ね良い																														
7月12	39%	36%	18%																														
12月12	53%	35%	8%																														
「鹿角が好きですか」の問いの肯定的評価の「大変良い」が大幅に増えた。良さに触れることができた成果と言える。「関わること」については、地域の方々につながる機会を増やすことで一層の改善が図ることができる。																																	
【町踊り・花輪ばやし練習】		【1年生制作PV『鹿角の未来』】		【企業説明会】																													

基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

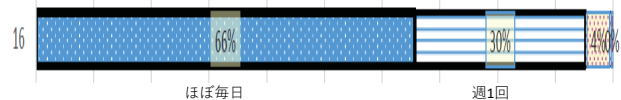
児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	活動の様々な場面で、意欲的に使用している。課題としては、コンピュータリテラシーの学年間での格差やタブレット端末使用のルールの確立があげられる。	中間	4	中間	4	環境の充実と積極的な運用により、ICT機器の効果的な活用が進められ、生徒の学びも充実している。今後、情報モラルの課題や個々のスキル差、家庭の通信環境等に適宜対応してほしい。
年度末	ICT機器の活用ルールについて、課題が上がる度に適宜確認と指導を行ってきたことで、落ち着いて活用が図られてきている。	年度末	4	年度末	4	積極的な活用が行われ、情報活用能力も向上している。今後、さらに効果的な活用を進め、個に応じた学びの充実につながることを期待している。端末の持ち帰りについても、関係機関と連携を図りながら進めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 教育ICT端末chromebookが生徒1人1台と全普通教室に電子黒板が1台が導入され、教員や生徒も文房具のように自然な活用が見られるようになってきている。また、活用場面も授業だけでなく、委員会活動や行事等においても効果的に活用し始めている。今後、生徒の主体的かつ効果的な活用をさらに進めていきたい。しかし、活用場面が多岐に渡り、増加することに伴い、生徒の情報モラル上の課題も上がってきている。2学期からは、chromebookの持ち帰りも始まるため、より使用についてのルール作りと規範意識の醸成を生徒や家庭と共に図っていきたい。					
	【年度末評価】 ICT機器の活用について、教員も生徒もいい意味で慣れてきており、コンピュータリテラシーにも大きな向上が見られる。一方で授業で活用する際、教師の明確な指示や聞かせ方等、生徒指導的機能を生かした上での活用が図られているかどうか、ICTに限らず成果に繋がるかどうかのカギとなっている。また、chromebookの持ち帰りについては、各家庭においてWifi環境の状況が違うため、使用には至っていない。今後、市教委と連携を図りながら、効果的な手立てについて検討していきたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
① 1人1台の端末を活用した個に応じた学びの充実 ② 情報社会において正しく判断・行動できる生徒を育む情報モラル教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業内において端末を活用した学び方の充実 情報モラル教室の実施 メディア・生活習慣の指導（MCD、メディア依存度チェック）

<資料> ※【 %】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合

- コンピュータ等のICT機器の活用（ほぼ毎日）【学習アンケート 90% > 44% (R5県1・2年平均)】
- ICT機器での意見交換・調べ学習（ほぼ毎日）【学習アンケート 66% > 27% (R5県1・2年平均)】
- 話し合い活動への積極性 【学習アンケート 90%】
- 話し合い活動による考えの深化 【学習アンケート 89%】

【学習】 コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どのくらい使用していますか。



【ICT機器を用いた話し合い活動】



【外部講師による情報モラル教室】



【学年集会や学級活動での発表】

基本方向 4 「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	明朗で素直な生徒が多い。しかし、自分のよさや可能性について考えることが苦手な生徒が少なくない。	中間	4	中間	4	良好な人間関係の構築に向けて、お互いのよさを認め合う機会を多く設けており、そのことが、「学校が楽しい」と回答する生徒の多さや自己肯定感にも高まりにも繋がっている。
年度末	行事に向けて、ともに力を合わせたり、互いの考えを言い合ったりしながら、集団としての力を高めてきている。しかし、集団に適応できず、個別対応が必要な生徒もいる。	年度末	4	年度末	4	各行事や取組において、学級や学年、全校と様々な工夫をした企画を実施しており、その際の生徒一人一人への居場所づくりや見届け等の配慮が感じられる。今後、自己肯定感さらには自己有用感の高まりを期待したい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 定期的に学年集会や学年レクを開催し、生徒同士の交流を図ることで、お互いのよさを認め合う機会を意図的に増やしている。生徒会活動では、各行事や委員会活動において、生徒の意見を汲み取りながら、自治的運営を大切にすることが、生徒の主体的な活動につながっている。毎月、学級力アンケートを実施し、自学級について振り返ることで、集団としての意識の向上を図るきっかけとしている。また、道徳教育では、授業実践を着実に積み重ねながら、学年部としての複数の教員による効果的な実践について研修を進めている。					
	【年度末評価】 毎週木曜日の帰りの会の時間帯を学年合同で行い、その時間で学年集会を行っている。また、2学期は、9～10月花中祭・合唱C、11月球技大会、12月百人一首かるた大会と、毎月学級対抗の企画を設けていることで、自然に力を合わせようという気風が校内に醸成されている。そして、結果だけに左右されることなく、取り組み過程を学級担任を中心に学年部単位で見取ったり、激励したりすることで、生徒一人一人の活動や集団に対する満足感につながっている。一方で、集団になじめなかったり、人間関係にトラブルを抱えてしまう生徒もいるため、生活アンケートや相談活動、hyper-QU分析、スクールカウンセラーによるカウンセリング等、複数の側面から生徒のメンタルサポートを行ってきている。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
① 一人一人に居場所がある集団作りの推進 ② 自己有用感と主体性を高める特別活動の充実 ③ 特別の教科道徳を「要」とした道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いのよさを認め合える学年集会の運営 ・hyper-QUの結果を踏まえた、生徒会活動の取組 ・生徒会活動の自治的運営 ・学級力アンケートの実施と学級会の定期的開催 ・各教室への道徳コーナーの設置 ・道徳の振り返りの共有

<資料> ※【 %】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合

- 学校は過ごしやすい場所
【生活アンケート 98%】
- 一人一人に居場所がある集団づくり
【保護者アンケート 89%】
- いじめ防止・不登校対応
【保護者アンケート 84%】

【生徒】 あなたにとって、学校は過ごしやすい場所ですか。

7月 15

12月 15



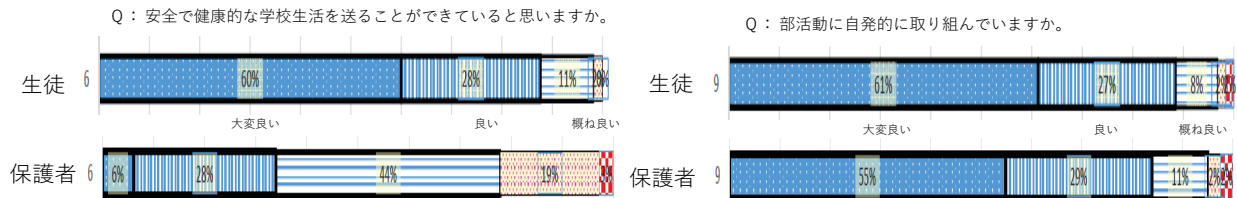
基本方向5「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	メディア時間など生活リズムが崩れている生徒が見られることや生徒の運動習慣に2極化の傾向が見られることが課題である。	中間	3	中間	3	睡眠時間の確保に向けた帰宅後の時間の使い方という視点の取組がよい。今後も定期的に企画を継続し、保護者との連携を図りながら、心身の健康と望ましい生活習慣の確立に期待したい。
年度末	全体的には望ましい生活習慣の定着が図られてきているが、個別に見るとゲームやスマホ等のメディア依存による体調不良等の課題を抱えている生徒がいる。	年度末	3	年度末	4	望ましい生活習慣の確立のために、メディアコントロール等家庭と連携を取りながら推進している。さらに、小中連携や保護者の意識の向上や協力を得ながら、粘り強く取り組んでほしい。また、体力向上のための取組の活性化にも期待している。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 6月に実施したメディアコントロール週間では、今年度から「睡眠時間の7時間以上の確保」するための帰宅後の時間の使い方に焦点を当てて実施した結果、7割の生徒が達成できた。保健集会では、生活習慣に関するアンケートの結果等について発表し、外部講師の方から「ネットが健康に及ぼす影響」について講話をしていただいた。交通安全については、自転車乗車について、4月と7月に交通安全教室を実施し、鹿角警察署員の方から道交法の改正による違反の具体についても指導していただいた。保健体育の授業や行事、部活動への取組は、意欲的な生徒が多く、体力テストも全国平均並みだが、敏捷性や巧緻性が低い傾向にあるので、2学期以降の取組を工夫していきたい。					
	【年度末評価】 生徒の帰宅後の過ごし方について意識させ、睡眠時間を確保するための適切なメディア利用について振り返るために、2学期もメディアコントロール週間を実施した。1学期よりも意識し、時間の使い方が改善された生徒が多くなった。今後、家庭との連携を図ることができるよう、面談等の場も活用しながら、生徒の実態について保護者とデータを共有化していくことで、さらに改善が図られると考える。食育指導については、感染症の状況が沈静化するに伴い、対面給食等以前の状況に戻そうとしているが、2学期もインフルエンザ等の流行もあり、今後も状況を見ながら徐々に進めていきたいと考えている。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
① 望ましい生活習慣の確立 ② 体力向上への意識を高める体育授業、体育的行事および部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康と望ましい生活習慣の確立 ・「生徒指導共通実践マニュアル」を活用した指導の共通実践 ・爽やかなあいさつの励行（あいさつ指導、あいとく運動） ・体力向上への意識を高める体育授業、体育的行事および部活動 ・保健指導、給食指導

<資料>※【 %】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合

○安全で健康的な学校生活 【生活アンケート 98% 保護者アンケート 78%】
 ○部活動への積極的な取組 【生活アンケート 97% 保護者アンケート 95%】



【保健集会「子どものネットリスク」】



【警察官による自転車の乗車指導】



【3年生バイキング給食】

基本方向6「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

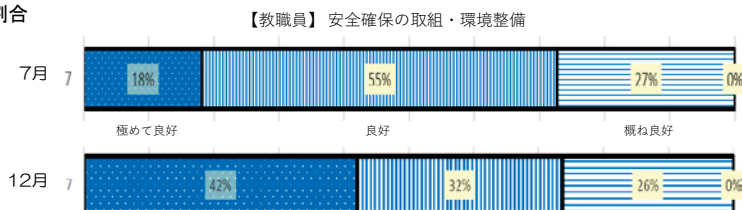
児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント								
年度初め	各学年で、学校や教室には入れない生徒や特別な支援が必要な生徒を複数抱えている。	中間	3	中間	3	実態把握や情報共有の方法が定着し、組織的に対応できていることが成果につながっている。今後も、小さなSOSにも気付ける感性を大事にしながら、不登校生徒への対応をお願いしたい。								
年度末	学校生活が進むにつれて、生徒の抱える課題も明らかになり、一人一人に応じた支援が必要になってきており、チームで対応してきている。	年度末	4	年度末	4	早期に家庭と連携し取り組んできたことが、不登校・不登校傾向生徒への効果的な対応につながっている。教育相談や日頃の声かけ等、支援が必要な生徒へのきめ細やかな対応をこれからも続けてほしい。								
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 不登校や不登校傾向の生徒に対して、生徒支援専任教員や通級教室担当を軸に、効果的な対応が取られており、不登校生徒の登校率の向上や新規不登校生徒の抑止につながっている。生活アンケートや教育相談活動により、生徒指導上で起こりうる課題が大きくなる前の初期段階で解決に至っている。また、生徒間にも、お互いを認め合ったり人間関係が深まるような雰囲気が見られた。これからも、意図的に生徒同士が互いの良さを認め合うような働きかけを実践していきたい。													
	【年度末評価】 年間を通じて、「生活に関するアンケート」や教育相談、hyper-QU等の調査結果で得た情報を活用しながら、不登校傾向生徒の早期発見及び早期対応を行ってきた。不登校傾向が予想される事案が起きた際は、早期にケース会議等を実施し、チームでの協議及び支援体制の確立を行うことで未然防止に努めてきている。現段階で、今年度新規の不登校生徒はおらず、不登校及び不登校傾向の生徒でも、学校に関わる度合いが増えてきている。生徒支援専任教員と各学年部が連携を取りながら、学級に戻ったり、登校できたりすることができるよう、常に当該生徒や保護者とのつながりを継続し、適切な関わりを心がけたい。													
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容												
① 共感的理解に基づく生徒支援の推進 ② 合理的配慮の視点による特別支援教育の推進 ③ 関係機関との連携強化		<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの良さを認め合うような声かけや場の設定 ・全校生徒と行う教育相談期間の設定 ・生活アンケートの実施による生徒の実態把握 ・ケース会議等による生徒への即時対応と情報の共有 ・インクルーシブ教育の理念による個別の教育的ニーズへの対応 ・SC、こもれび教室、さわやか家庭相談員、警察との連携 												
<資料> ※【 %】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合 ○自分にはよいところがある 【学習アンケ 77%≦80%(R5県平均)】														
○子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進 【教職員アンケ 100%】														
【学習】 自分には、よい所がある														
<table border="1"> <caption>【学習】 自分には、よい所がある</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当てはまる</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば当てはまる</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば当てはまらない</td> <td>17%</td> </tr> </tbody> </table>							評価	割合	当てはまる	28%	どちらかといえば当てはまる	48%	どちらかといえば当てはまらない	17%
評価	割合													
当てはまる	28%													
どちらかといえば当てはまる	48%													
どちらかといえば当てはまらない	17%													
【教職員】 共感的理解に基づく生徒支援の推進等														
<table border="1"> <caption>【教職員】 共感的理解に基づく生徒支援の推進等</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>極めて良好</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>良好</td> <td>47%</td> </tr> <tr> <td>概ね良好</td> <td>37%</td> </tr> </tbody> </table>							評価	割合	極めて良好	71%	良好	47%	概ね良好	37%
評価	割合													
極めて良好	71%													
良好	47%													
概ね良好	37%													

基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況	自己評価	外部評価	外部評価者のコメント
年度初め	中間 4	中間 4	様々な状況を想定した訓練や主体的に参加の整備作業等多様な取組が実施されていてよい。安全・安心取組はどれだけ行ってもやり過ぎることはなく、今後も事故の無い環境づくりをお願いしたい。
年度末	年度末 4	年度末 4	地震発生時の初期対応や災害時、命を守るためのノウハウについて、今後も定期的に確認して欲しい。今年度はクマ対応で負担も大きかったと思うが、今後も関係機関と連携を取りながら、安全な学校をお願いしたい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 毎月、校内の安全点検を実施し、不備や不良箇所の確認を行い、随時補修や修理を行っている。5月に1回目の避難訓練を実施し、その際、ICT機器用いて「重ねるハザードマップ」を閲覧しながら、学校周辺や生徒の登校ルート、自宅周辺等の洪水や土砂災害のリスクについても確認し、生徒の防災意識の啓蒙を図った。7月に、110名のPTAと生徒による早朝作業を実施し、校舎周辺の整備作業を行った。また、七夕飾りや各階の掲示等、校内が明るくなるような企画が行われ、日々を過ごす生徒や教職員の心の癒やしとなっている。来校される方々からも好評価をいただいた。</p> <p>【年度末評価】 二学期は、特に花中祭前に学校近辺でのクマの出没による対応に追われたが、市教委や警察、PTA役員の方々からも協力を得ながら、登校ルートや送迎方法の変更、生徒の集団下校や教職員による見守り等を行い、朝夕の登下校を事故無く終えることができた。次年度以降も、予想されることだけに、PTAへの協力体制の整備等を事前に進めておきたい。第2回防災学習（避難訓練）では、地震が起きた際の初期対応学習として、校内外の写真をもとに、地震発生時の身の回りに潜む危険と初期対応について理解を広めたり、自衛官の方から東日本大震災時の救援活動について講話を聞いたりして、防災に対する意識の向上を図った。</p>		

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
① 安全確保のための取組の充実 ② 校舎内外の潤いある環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画に基づく危機管理の徹底 ・年2回以上の避難訓練の実施と安全対策の見直し ・交通安全指導（交通安全教室、バス乗車マナー指導） ・長期休業、登下校時等の事故防止の徹底 ・野生動物への適切な対策 ・諸会計の適切な執行 ・個人情報の適切な管理 ・校内掲示物の更新と効果的な活用 ・安全点検、校舎・校地の環境整備 ・季節感を取り入れ、生徒の活動が見える校内掲示の工夫

<資料> ※【 %】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合
○安全確保の取組・環境整備
【教職員アンケート 100%】



【早朝整校舎周辺作業】



【七夕飾り：季節感を取り入れた掲示】



【地震初期対応訓練・自衛官による災害救助講話】



基本方向 8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況	自己評価		外部評価		外部評価者のコメント	
年度初め	全職員が意欲的に研修に取り組んでいる。ICTの活用と学び合いの充実に課題が見られる。	中間	4	中間	4	授業改善の意識が高く、効果的な授業研修が実践されている。今後も課題の把握に努めながら、幅広いスキルアップにつなげてほしい。10月の鹿角中学校授業研究会での成果発表にも期待している。
年度末	共通実践事項を設定し、定期的の良い実践例を紹介していくことで、教員間に継続的な授業改善に向かう意識が培われている。	年度末	4	年度末	4	職員会議での研修や中学校教科外研究会等の実践等、新たなことにチャレンジしようとする気概が感じられた。業務内容が多岐に渡り、教育環境の変化にも対応しながらも、教職員はよく取り組んでいる。

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 研究主任がリーダーシップを発揮しながら、研究の柱に基づいた授業研究会や授業を見合う会の実施、職員会議時に撮影した映像をもとに授業実践の良い例を紹介するミニ研修会等、アイデアが生かされた取り組みが多数企画・実践され、授業改善に対する意識の向上につながっている。また、10月に本校で鹿角地区中学校の全教員が来校し総合的な学習の時間についての授業研究会が開催される。今年度、新たに「はなふるタイム」を実施するに当たり、筑波大学藤田晃之教授から「キャリア教育の実践」のテーマで講演会を開き、本校の総合的な学習の時間の実践について貴重な提言をいただいた。2学期の活動や花中祭や研究会につなげていきたい。</p> <p>【年度末評価】 一学期に引き続き、研究主任がリーダーシップを発揮し、研究の柱に基づいた授業実践や職員会議を活用したミニ研修会等を行うことで、授業改善の意識の向上を図った。総合的な学習では、藤田教授からの助言を生かしながら、「はなふるタイム」を推進し、花中祭での発表につなげ、その後、開催された鹿角地区中学校教科外研究会（総合的な学習）では、今年度の「はなふるタイム」の成果と課題について、全校で意見交換しながら振り返りを行った。1月に開催された鹿角教員実践発表会での本取組についての発表も合わせ、他校の先生方から本校の総合的な学習の取組や推進方法について好評価をいただいた。</p>
----------------	---

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
<p>① 教職員の資質向上を目指した校内研修の充実</p> <p>② 人事評価制度を生かした校内OJTの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究主題に基づいた教科研究主題および主な取組の実施と振り返り ・ 教科の枠を超えた指導案検討会および授業研究会の実施 ・ 授業プランシートを活用した授業実践 ・ 授業を見合う期間の設定（年2回） ・ 生徒アンケート、教師アンケートの実施と分析

<資料> ※【 % 】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合

○校内研修の充実 【教職員アンケート 100%】

【教職員】 校内研修の充実



1学期は、各教科の教科授業研究会と一箇々の教員の研修を中実施し、2学期は、鹿角教科外授業研究会→研究主任を軸に全体研修会を実施した。



【職員会議時に撮影動画を利用した研究に関わるミニ研修】



【第2回校内授業研究会】



【藤田教授(筑波大)による総合的な学習研修会】



【鹿角中学校教科外研究会【総合的な学習】】

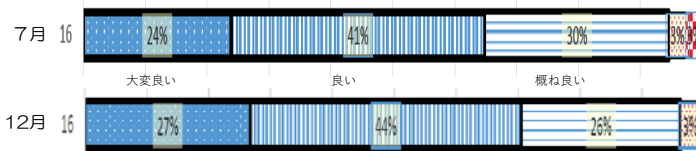
基本方向9「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	前年度からの課題として、「地域連携の目的の共有化の推進」と「地域連携事業・発信のさらなる推進」があげられている。	中間	4	中間	4	生徒が主体的に、生き生きと活動しており、地域との繋がりをもつことで更なる成長が期待できる。今後も、地域人材・地域素材の積極的な活用をお願いしたい。
年度末	総合的な学習を中心に、地域の方々から生徒を指導していただく機会を増やしてきている。花中祭やデジタル機器等を効果的に活用しながら、効果的な情報発信に努めている。	年度末	4	年度末	4	熟議「伝統芸能の継承」において、今後の方向性を確認できたことが、その後の活動に好影響を与えた。今後も、特色ある学校づくりのために、地域関係者との関わりを継続しながら、臆することなく挑戦して行ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 第1回学校運営協議会を実施し、今年度の学校経営の方向性や実践について確認した。第2回の協議会では、委員と教員に加え、生徒代表、PTA代表、地域関係者等による「伝統芸能の継承」について熟議を予定している。「はなふるタイム」では、1学期、町踊り（1年）や花輪ねぶた（2年）の活動について地域の関係者の方々から指導をしていただいた。花中祭に向けて、今後も連携し、計画的に取組を進めていきたい。また、今年度からスクリレ（デジタル連絡アプリ）を導入したことで、学校報や学年通信等の発行において、より迅速かつカラーでの効果的な情報発信を行うことが可能となった。					
	【年度末評価】 第2回学校運営協議会で委員・教員・生徒・PTA・地域関係者による「熟議」を実施したことで、花中祭や次年度以降に向けた「はなふるタイム」や地域連携の在り方についてのアイデアや新たな発想を持つことができた。今年度のできたことやできなかったことを足掛かりとして、次年度発展可能な取組につなげていきたい。また、今年度は小学校に加えて、介護施設への合唱訪問を再開することができ、より多くの方々に生徒の頑張りを伝えることができた。保護者のスクリレの活用も広まってきており、今後もより効果的な情報発信ツールの導入には効果を吟味しながら積極的に進めていきたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
① 地域人材やボランティア、地域素材の積極的な活用 ② 保護者・地域への積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を活用した地域の願いと学校教育活動の融合 ・「はなふるタイム」での積極的な地域人材の活用 ・生徒会が主体となった地域ボランティアの実施 ・学校報、HP、地域の掲示板活用による情報の発信 ・報道機関への学校行事の告知による情報の発信

＜資料＞※【 %】内の数値は各アンケートの肯定的回答割合
○家庭への情報提供【保護者アンケート 96%←7月:95%】

【保護者】学校報や学年だより、花中連絡メール等による情報提供は十分だと思いますか。



【はなふるタイム：地域の方々からの指導】



【第2回学校運営協議会『熟議』】



【茜染め体験学習】

